

平成24年度第7回エコアクション21全国交流研修大会in岡山

第1分科会(産業廃棄物処理業)報告

EA21審査人が、廃棄物処理業者の力を 生かし、発展・膨らませる審査とは何か

第1分科会実行委員会会長

山口県立大学 非常勤講師

EA21審査人 古谷 長藏

第1分科会の状況(内容)

1 事例発表等

- | | |
|-------------|-------|
| ① 株式会社ニシテック | 西本 智亨 |
| ② 株式会社カンサイ | 川本 義勝 |
| ③ EA21審査人 | 桧垣 光次 |
| ④ 株式会社リング | 津森 寛 |

2 グループ討議

事例発表を「モデル」としてグループ参加者による討議

3 グループ討議結果の発表

4 第1分科会討議結果の発表及び総合講評

1 事例発表等

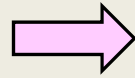
エコアクション21に期待すること



株式会社 ニシテック
西本 智亨

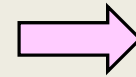


取得の動機



お客様との取引の信頼性のUP

取得した効果(上がった成果)



- ① 従業員の自発的な活動が見えるようになった。
- ② 経費削減につながった。

期待外れだったこと



認知度が低い

エコアクション21 に期待すること

とにかく情報の提供を！

新しい取組や会社のメリットになる取組など

(例)

メール配信、〇〇新聞、〇〇通信



EA21認証取得事業者の優れた取組の紹介

EA21認証取得事業者 交流の場を！

① 現経営者の交流

② 次代を担う若手幹部の交流

特に
異業種交流

情報交換はもちろん 絆(連帯感)の醸成

エコアクション21 を続けてよかった！
と思えるように ……

第7回エコアクション21 全国交流研修大会in岡山

平成24年10月26日

第一分科会

「産業廃棄物処理業」

株式会社カンサイ

会長 川 本 義 勝

44期 環境報告書（要約版）



株式会社 カンサイ

作成 平成23年10月

きなり村の農作物によるCO₂吸収

農作物によるCO₂吸収量 実績(第44期)

きなり村

| | 44期 |
|---------------------|---------|
| 農作物収穫量 | 5,383Kg |
| CO ₂ 吸収量 | 1,430Kg |

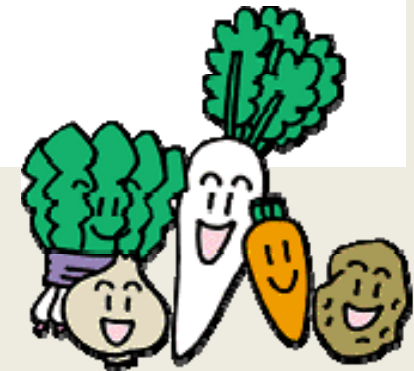
きなり村では視点を換え、「天然資源等の削減」ではなく、「地球環境に貢献」をテーマに農作物による地球温暖化物質であるCO₂の吸収を目的として収穫量を数値目標に設定する事にしました。

今期の農作物収穫量は5,383KgでCO₂吸収量は1,430Kgでした。

この1,430kgは一家族が出すCO₂量の50日分に相当致します。

45期は44期の農作物収穫量を目標に掲げ、更に地球環境に貢献致します。

* CO₂吸収量の計算方法は
「LCA手法を用いた農作物栽培の環境影響評価実施マニュアル」
平成15年11月 独立行政法人 農業環境技術研究所による



コミュニケーション



情報開示・社外コミュニケーション



ホームページでの情報開示

カンサイの環境への取り組みをホームページで紹介しています。
 カンサイの環境に関する情報や従業員によるスタッフレポート等、順次ブログを更新し、社外の方とコミュニケーションを図る努力をしております。



← 御客様から「見たよ」と声をかけて頂くスタッフレポートときなり村ブログ社員の声、考えを載せてあります！



🌸 循環型社会の推進



その昔、人は大地の循環の中で暮らしていました。
食べて大地に返して、また次の年に備える。
自分の家族のまわりで完結していた小さな、でもとても理にかなった暮らし。
便利さに慣れた私たちには、手間や面倒も増えますが、自然に優しいし、食べ物はおいしくなるし、健康にいいし、からだも(たぶん)心もきれいになる。
そんな理想を形にしているのがカンサイであり、きなり村。
自然の力と人の知恵だけで作物を育て、社会へ還元、その資源を回収し、作物の肥料として活用する。
そんな循環型社会をカンサイは推進致します。

完成予定図



安全・安心な最終処分場の 維持管理の方向性

2012年10月
EA21審査人
桧垣光次

安全・安心な最終処分場の確保に向けて

周辺環境への影響を最小限化する。 → 処分場の早期安定化
そのためには

- ① 浸出水・浸透水の水質の良質化
- ② 浸出水・浸透水の発生量の削減
- ③ 埋立ガスの発生抑制
- ④ 周辺環境への浸出水等の漏えい防止

実現のための基本原則

埋立地内部をより好気的な環境に維持すること

具体的な対策

(1) 施設の構造上の対策

- ・ 機能を十分に発揮する底部集排水管の構造の確保
- ・ 埋立地内部への空気の流通部を多く確保

(2) 維持管理上の対策

- ・ 雨水排除による浸出水量・浸透水量の削減
- ・ 埋立廃棄物による水質悪化防止 (埋立廃棄物の組み合わせの検討)
- ・ 浸出水処理施設以外における水質の改善

新しい廃棄物最終処分場を目指して

維持管理の重要性

- ・適正処理
- ・安全・安心の環境保全対策
- ・住民への信頼

より高度な維持管理技術を目指して

見える処分場に向かって

→堂々と自信を持って

廃棄物最終処分場が都市基盤の一つとして、
地位向上を目指して

容器包装リサイクル事業総合評価制度 とEA21の連携



エコアクション21
認証・登録番号

0005736



くらしの窓口
地域生活支援事業

株式会社 リング

〒759-3622
山口県阿武郡阿武町大字奈古3626番地
08388-2-3233 FAX 08388-2-2821

<http://www.ab.auone-net.jp/~ring/>
<http://kurashi-japan.com/>



TE

5. 取り組み事例

① 構内専用車の一部にBDF(バイオディーゼル燃料)を使用することでCO2削減



平成21年12月からスタート

平成24年3月末までで **11 t** のCO2削減

※「やまぐちエコ市場カーボンオフセット事業」に登録
県/自治体主催のイベントで発生するCO2をオフセット



【BDF利用拡大の障壁】

イ. 法制度面

混合利用には特定利用事業者として登録し、混合の都度10日前に申請

実質的な設備規制(分子レベルまでの攪拌)

→結果的に100%利用に限定

ロ. 運用面

使用実態によってはパワー不足

→2台目を断念

利用車両の更新

→コンピュータ制御の燃料噴射でBDF利用不可

需要／供給の両面でBDF市場が閉塞

品質を確保した規格BDF(B5規格等)が、簡単にGSで入手できる法制度改定が必要

5. 取り組み事例

② 水資源の有効利用

用水貯留タンク

洗浄設備

汚水処理設備

イ. 循環型汚水処理



鳴き砂の浜‘清ヶ浜’



ロ. 雨水の有効利用 =

地下水

汲み上げ量削減



溜枘の放水管理の徹底



溜枘の増設

エコマーク認定製品



③ 製造販売した再生ペレット利用用途の環境配慮(ダブルエコ)

総合評価(高度利用分野)で加点要素

④ デマンド管理(30分毎の最大電力)

一連工程の製造ラインのため使用電力コントロールより、機器の異常の早期発見に活用

機器のトラブル
=生産性低下
→環境指標悪化

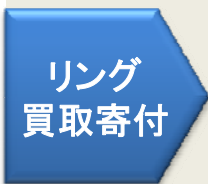
5. 取り組み事例

⑤ 地域に開かれたリサイクル施設として積極的な見学受入



- ・環境教育
- ・リサイクル啓発
- ・周辺リサイクル施設との相互連携

⑥ エコキャップ運動への参加



キャップ 800個で
ポリオワクチン1本



＜資源と食の地産地消視察パックのご提案＞

①「機リング」

阿武・森
エリカ先進
リサイクル
施設見学

地元産食材に
こだわった
昼食
お買物(農水産
物)
温泉でゆったい

⑤「(有) 萩新築」

—昼食—「阿武町特産定食」 ②「木質チップ化プラント」

④「道の駅 太陽光発電」

③「道の駅 ハイマテックホテル」

※季節により内容は変わります。
ご飯、味噌汁、刺身盛り、魚フライ、
麻呂酒牛締め、餅の物、漬物、デザート

事前にご予約ください

—見学内容—

- ① 容器包装プラスチックのリサイクル工場見学
- ② 木質バイオマスチップ化プラント見学
- ③ 道の駅内、バイオマスチップボイラー見学
- ④ 道の駅内、太陽光発電見学
- ⑤ 機密文書及び紙のリサイクル工場見学

—各マークの説明—

見学 お食事 TOILET お手洗い ショッピング 温泉

『資源も地産地消』で
目に見えるリサイクル



6.EA21取り組みメリット



・経営品質の向上

・生産性の向上

・社員の問題意識の醸成・レベルアップ

H21年9月
スタート

・プログラムに沿ったシステム構築/整備



自然な流れで
同時に構築

環境
経営

労働
安全
衛生

品質
管理

7.EA21に期待するもの

- ①有益な情報の提供
...補助基金、助成金、コスト削減に結びつく減免制度、等
- ②EA21認証取得事業者による相互交流の場
...情報交換会、等
- ③認証取得を後押しするプログラムの中核都市以外での開催
- ④より経済指標と連携するような環境目標ガイドライン



2 グループ討議結果

<Aグループ(収集運搬業)> 1/4

1 収集運搬業において、EA21認証取得による「差別化」は可能か？ **【可能である。】**

- ・経営をオープンにすることで、適正な経営を行っていることの証となる。
- ・顧客からの指名に有利
- ・入札制度の加点制度で差別化
- ・「法令遵守」をアピールでき、顧客に好感をもたれる。

【課題】

- ・取得により若干の差別化は図れるが、顧客の多くは「低価格」に流れる。

<Aグループ(収集運搬業)> 2/4

2 収集運搬業者が最も注意すべき環境保全対策は？

- ・法令遵守
- ・燃料の削減 → BDFの使用
- ・保管の適正化
- ・緊急時訓練は、重要

3 収集運搬業にふさわしい環境目標と環境活動計画とは？

- ・受託量の向上
- ・交通事故ゼロも環境目標になる。
- ・収集先での清掃の励行

<Aグループ(収集運搬業)> 3/4

4 「安全運転の」徹底は環境目標になるか？【可能】

- ・事故防止は**最大の負荷低減**
- ・デジタコの装着
- ・クレームをなくすことが安全運転につながる
- ・過積載防止の徹底
- ・発注者に分別をお願いし、できる限り中身を把握する。
 - 建廃では、「場所・時間がない。」という理由で受け入れてもらえないことも多い。

＜Aグループ（収集運搬業）＞ 4/4

5 「優良性認定制度」のメリット

- ・環境配慮型企业としてアピール
- ・優良マークが顧客に評価された。
- ・【要望】行政が、EA21、優良性認定企業を公表してほしい → 差別化

6 やる気を引き出す教育・訓練とは？

- ・従業員の評価につなぐ。
- ・優良従業員の見える化を図る。
- ・従業員に教育・訓練計画を立案・実施させる。
- ・循環型社会形成に貢献していることを従業員にしっかり意識付けする。

<B1グループ(中間処理)> 1/2

1 省エネ、省資源の取組

- (1) リサイクル率の向上 → 歩留まりの向上
新規顧客の獲得に繋がる
がれき類の路盤材等への活用
- (2) 燃費の向上
→ 可能であればドライブレコーダー、GPSによる管理
(エコドライブ10ヶ条)
- (3) 近隣への配慮(騒音、振動、臭気、粉じん、車侵入時)
近隣とのコミュニケーションの実施が最重要
- (4) 電力の削減 → デマンド管理の推奨
- (5) 目標の見える化 → 金額に換算した目標
- (6) 優良事業者認定取得への意識付け

<B1グループ(中間処理)> 2/2

- 2 中間処理フローのボトルネック把握
- 3 リサイクルルート、製品化情報の収集
- 4 「**是正処置は宝の山、予防処置は利益の流出防止である**」ことを教える
- 5 他事業者の有効な事例を紹介して是正処置を検討させる

<B2グループ(最終処理)> 1/1

1 省エネ、省資源の取組

(1) 重機

石油資源(ブルやユンボのエコドライブ標準なし)

(2) 水処理

薬品使用量削減(添加量を実態に合わせて調整)

(3) 電気使用

ブロワーのインバータ利用、コンプレッサーのエアリー漏
ボイラーの更新

2 継続的な取り組み

審査人として経営者とのコミュニケーションが重要

住民との良好な関係の形成が最重要

<Cグループ(処分業(リサイクル))> 1/3

1 処分業(リサイクル)に役立つ審査とは？

2 審査人は、受審企業に有益な情報を提供する

- (1) 夜間電力の有効利用の提案？
- (2) 具体的な改善案（コスト削減につながる）を提示する。
- (3) 事業者のモチベーションを高める
- (4) 後継者の育成をするように持っていく。
- (5) 審査人の熱意
- (6) 5Sの徹底（特に、**整理・整頓が重要**）
- (7) 設備の予防と保全（効果的なメンテナンスによるトラブルの解消）

<Cグループ(処分業(リサイクル))> 2/3

3 審査人は、受審企業の内容をよく理解する

- (1) 優良評価認定をされた事業者については、EA21審査書類の削減や審査工数の削減。
- (2) 送配電用ガイシの粉砕による路盤材へのリサイクルなどを行う事業者があるが、そのような事例の周知と情報配信。
- (3) リサイクル時の破砕材などの成分分析を行う方法と販売方法の助言。
- (4) リサイクル率増加のため、自社で発生する産廃量と中身の検討。
- (5) 危険な化学物質を扱う可能性のある企業の把握と化学物質の理解。

<Cグループ(処分業(リサイクル))> 3/3

4 審査人は、受審企業の継続的改善に繋がる指導助言をする

- (1) 情報収集／交換の行える業者間交流と審査人からの情報提供
- (2) 有益な取り組みをまとめて事例集を作成。
- (3) 様式9の活用(アドバイス集を作り、審査人で勉強をする)
- (4) 歩留まりの考え方を教える。
- (5) 遵法性の維持に関する教育を行う。
- (6) 地域住民や自治体とのコミュニケーションを行う方法の指導。
- (7) 助成金の情報伝授
- (8) ESCO事業の取り組み提案方法。
- (9) 受審事業者の規模に見合った指導・アドバイスを行う。

<総合講評>

1/2

1 共通事項

(1) 設備・車両の運用管理、リスク管理への指導・助言

(2) 企業価値の向上：環境活動レポート→ 信頼性

(3) 経済指標を見てのアドバイス

2 「排出事業者が何を望んでいるか」の視点

顧客満足度を得るためのサービス（リサイクル率アップ、収集場所の清掃など）

3 外部コミュニケーションの向上

環境活動レポートの活用

<総合講評>

2/2

4 新たな動き：「アップサイクル」

“東急ハンズ”の高付加価値商品

デザイナーが廃棄物を部品として注目

企業価値向上を助言（新しいものの価値を生み出していける）

5 情報の共有化：「コミュニケーションシート」

6 「産業廃棄物処理分野における温暖化対策の手引き」(環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課 H20.3)

以上で第1分科会の報告を終わります。

ご静聴ありがとうございました。

